

第35回日本老年麻醉学会

スイーツセミナー |

2023年

3/4 (土)

14:55 ~ 15:45

会場

御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
【第一会場】

〒101-1162 東京都千代田区神田駿河台4-6

座長

溝渕 知司 先生

神戸大学大学院医学研究科
外科系講座 麻醉科学分野
教授

演者

秋吉 浩三郎 先生

福岡大学医学部
麻醉科学教室
教授

術後疼痛とその管理は
老年患者の予後に影響を与えるか？

術後疼痛とその管理は 老年患者の予後に影響を与えるか？

痛みは不快で主観的、多面的な生物心理社会的経験であり、物理的、心理的、社会的、精神的、様々な要因によって影響を受ける。良好で効果的な疼痛管理を達成するためには、これらすべての要因への対応が必要である。

手術後の疼痛管理は、手術をしたのだから痛いもの、と長い間軽んじられてきた側面があるのではないだろうか。しかし、積極的に術後疼痛管理に取り組む日本における先駆的な施設からの情報発信により、術後疼痛管理が術後経過に与える影響が明らかとなり、関連学会や会員の働きかけにより、術後疼痛管理加算が保険収載された。これは術後の痛みは“当たり前で仕方ないもの”から、“コントロールしなくてはならないもの”、へ医療従事者の意識を転換させる大きな転換点である。

現在、日本は世界一の長寿国であり、平均寿命は男性 81.5歳、女性 87.6 歳である。2050年には女性の平均寿命は90歳を超えると予想されており、今後ますます老年患者の手術が増加する事が予想される。老年患者の場合、術後疼痛が術後経過に与える影響は深刻である。術後疼痛が遷延すれば、退院後の活動性も低下させ、frailtyの進行につながる。退院後、自宅に帰宅しても、frailtyが進行すれば、自宅に引きこもりがちとなり、廃用萎縮を引き起こし、その結果、精神的にも不安やうつ状態に陥りやすくなり、社会的にも肉体的にも孤立してしまう。健康寿命が長くなったとは言え、手術を契機に自立した生活から後退し、寝たきりとなるような事があれば、大きな損失である。老年患者でこそ、術後疼痛管理の重要性が注視されなくてはならない。

老年患者は、若年患者と大きく異なった特徴を持っている。脳疾患や心疾患のため抗血小板薬や抗凝固薬を投薬されていることも多く、硬膜外麻酔や末梢神経ブロックの適応については十分な注意が必要である。術後鎮痛に用いられる薬剤に関しても、加齢に伴う薬物動態の変化、合併症への影響、さらには薬の服薬状況にまで配慮する必要がある。また、複数の併存疾患を持つことも一般的であり、多剤服用による相互作用も念頭に置かなくてはならない。我々麻酔科医は、使用する鎮痛薬に関して十分な知識を持つべきだが、看護師や薬剤師など、多職種の積極的な関与を求めた術後疼痛管理チームのアプローチは、老年患者の術後疼痛管理にこそ効果的で大きな力を発揮する。

本講演では、老年患者の術後疼痛とその管理に関してその問題点をまとめ、術後疼痛管理チームの活動がどのような影響を与えるかを示したい。